

共同研究支援報告書

提出日	
氏名	原田妙子
所属大学名	浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター
職位	特任助教
研究題目	複合ルールマネジメント課題による神経発達症者の実行機能評価の有用性の検討
内容報告	<p>ADHDやASDなどの神経発達症児の中に実行機能の障害が併存するケースがあるものの、どのような実行機能の問題が生じているのかを評価しうる認知課題が未だない。本研究では、認知機能を低次から高次へ(課題A、BおよびC)と段階的に評価し、実行機能の発達を評価する新しいパラダイム(複合ルールマネジメント課題)を用い、神経発達症者の実行機能について検討した。対象は、7歳~10歳(平均8.6 ± 0.9歳)までの児童57名(女子36名)が本研究に参加し、うち15名がADHD特性群(Connersによる境界域以上(≥ 60))に割り当てられた。結果、低次の課題(AとB)の正答率では群間に差が見られなかったものの、複合的なルールを使い高次の認知機能を検討する課題Cでは有意な差が見られた($p=0.002$)。反応時間では、課題間には有意な差がみられたものの、群間の差は見られなかった。さらに、認知機能に影響を与える母親の学歴、年齢、世帯年収を統制したうえで、課題の正答率について、重回帰分析を用いて検討した結果、実行機能課題Cで、ADHD特性群では、コントロール群に比べ正答率が0.34低くなるという結果が得られた($p=0.003$)。よって、本研究で用いた課題がADHD児の実行機能の評価に役立つ可能性があることが示唆された。</p>
成果(論文発表等)	第24回日本ヒト脳機能マッピング学会にて口頭発表(演題 37) 2022/02/28